

# ふるさと再発見

## ～幕末維新と徳地～

たいちゅうさま  
徳地の隊中様 一帰郷した諸隊兵一

明治2年（1870年）5月、北海道五稜郭の戦いで江戸幕府は倒れて明治維新となります。長州藩から戦いに出ていた約5千人の兵も、それぞれの戦地から意気揚々と凱旋しました。

この年、朝廷から12万石を超す賞典（ほうび）が支給されました。徳山藩の年貢年収が6万石ですので、その賞典額は莫大なものです。しかし諸隊兵に支給されると期待した「ほうび」は山口藩（毛利家）に入り、農民出身の隊士にはわずかしき支給されませんでした。しかもその配分を巡って要求している最中に、藩と諸隊幹部との不正や軍編成とが重なって山口藩は大混乱となりました。この時の処遇に不満と不信を抱き、多くの諸隊兵が自分の意志で隊を離れます。「脱隊」です。そして明治3年2月9日、強硬な姿勢を貫く脱隊兵に対する鎮圧事件が起こるのです。山口藩は木戸孝允の命令で、反乱を指導したとして約40人を野山獄や萩大谷・山口終で処刑しました。

その後、山口藩は農民と脱隊した兵とが結びつく「一揆」を極度に怖れました。藩（県）内全域にわたって、少しでも不穏な動きがあれば「再挙の恐れ」を口実にして厳しい取り締まりを行ないました。事件が起こった明治2年と3年はひどい凶作でした。ここ徳地でも、年貢取り立てに苦しむ農民に添おうとした徳地出身の帰郷諸隊兵の動きに対して藩（県）は厳しく対し、多くの若者を反逆者として歴史から消していきました。

殉難者となった徳地の若者たちも無名ではありますが、志願して維新の改革へはせ参じ、新しい日本の国づくりへ身を挺した誇るべき先達です。

明治維新150年の顕彰にあたっては、名をあげた人は勿論ですが、脱隊兵として地元で非業の最期を迎えた者も「徳地の隊中様」として祀り、供養することでその霊に報いたいものです。

〔山口市平川の小出部落では、明治3年2月9日に戦死した藤山佐熊（22才）を「隊中様」として、毎年4月9日に集落をあげて慰霊祭を行っています。〕



串遠内 人丸神社遠景  
「徳地の隊中様」殉難の地



山口市平川 小出部落  
「隊中様」慰霊祭